

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成26年7月24日 (2014.7.24)

【公表番号】特表2012-514597(P2012-514597A)

【公表日】平成24年6月28日 (2012.6.28)

【年通号数】公開・登録公報2012-025

【出願番号】特願2011-544414(P2011-544414)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/231 (2006.01)

A 6 1 K 31/232 (2006.01)

A 6 1 K 31/683 (2006.01)

A 6 1 P 3/00 (2006.01)

A 6 1 P 3/06 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 9/12 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 2 3 L 1/30 (2006.01)

A 2 3 K 1/18 (2006.01)

A 2 3 K 1/16 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/231

A 6 1 K 31/232

A 6 1 K 31/683

A 6 1 P 3/00

A 6 1 P 3/06

A 6 1 P 3/10

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 9/12

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 2 3 L 1/30 A

A 2 3 K 1/18 A

A 2 3 K 1/16 3 0 1 H

A 2 3 K 1/16 3 0 3 C

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年6月4日 (2014.6.4)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 3 1 】

[0031] L C P U F A は、当業者に公知の任意の L C P U F A であってよい。様々な実施形態において、L C P U F A は、少なくとも 18 個の炭素原子及び少なくとも 2 個の二重

結合を有する少なくとも1種のモノカルボン酸である。他の実施形態において、LCPUFAは、少なくとも20個の炭素原子及び少なくとも2個の二重結合を有する少なくとも1種のモノカルボン酸である。LCPUFAの例としては、脂肪酸、例えばリノール酸18:2(n-6)all-cis-9,12-オクタデカジエン酸；リノレン酸(GLA)18:3(n-6)all-cis-6,9,12-オクタデカトリエン酸；エイコサジエン酸20:2(n-6)all-cis-11,14-エイコサジエン酸；ジホモリノレン酸(DGLA)20:3(n-6)all-cis-8,11,14-エイコサトリエン酸；アラキドン酸(AA)20:4(n-6)all-cis-5,8,11,14-エイコサテトラエン酸；ドコサジエン酸22:2(n-6)all-cis-13,16-ドコサジエン酸；アドレン酸22:4(n-6)all-cis-7,10,13,16-ドコサテトラエン酸；及びドコサペンタエン酸(オズボン酸)22:5(n-6)all-cis-4,7,10,13,16-ドコサペンタエン酸、並びに3脂肪酸、例えばリノレン酸(ALA)18:3(n-3)all-cis-9,12,15-オクタデカトリエン酸；ステアリドン酸(STD)18:4(n-3)all-cis-6,9,12,15-オクタデカテトラエン酸；エイコサトリエン酸(ETE)20:3(n-3)all-cis-11,14,17-エイコサトリエン酸；エイコサテトラエン酸(ETA)20:4(n-3)all-cis-8,11,14,17-エイコサテトラエン酸；エイコサペンタエン酸(EPA)20:5(n-3)all-cis-5,8,11,14,17-エイコサペンタエン酸；ドコサペンタエン酸(DPA)(クルパドノン酸)22:5(n-3)all-cis-7,10,13,16,19-ドコサペンタエン酸；ドコサヘキサエン酸(DHA)22:6(n-3)all-cis-4,7,10,13,16,19-ドコサヘキサエン酸；テトラコサペンタエン酸24:5(n-3)all-cis-9,12,15,18,21-ドコサヘキサエン酸；及びテトラコサヘキサエン酸(ニシン酸)24:6(n-3)all-cis-6,9,12,15,18,21-テトラコセン酸が挙げられる。LCPUFAは、遊離化合物として、或いはアシルグリセロール(モノアシルグリセロール、ジアシルグリセロール及びトリアシルグリセロール)又はグリセロリン脂質(ホスファチジルコリン、ホスファチジルエタノールアミン、ホスファチジイルノシトール又はホスファチジルセリン)等のエステルとして提供できる。好ましくは、LCPUFAは、トリアシルグリセロール又はリン脂質誘導体として動物に投与される。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0045

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0045】

【表 1】

表1

食餌組成物(食餌kg当たりのg)

	妊娠期及び授乳期中の雌 に与えられた食餌			離乳期後の若年ラット に与えられた食餌
	対照	DHA-TG	DHA-PL	成長食
脂質	200	200	200	50
18:2n-6	34.12	33.12	32.68	35
18:3n-3	6.44	3.46	3.34	7
DHA	-	1.2	1.2	-
カゼイン	270	270	270	180
デンプン	200	200	200	460
グルコース	207.65	207.65	207.65	230
非栄養繊維	50	50	50	20
ビタミン(混合)	10	10	10	10
ミネラル(混合)	50.85	50.85	50.85	50
L-メチオニン	2.5	2.5	2.5	-
コリン	2.75	2.75	2.75	-
イノシトール	6.25	6.25	6.25	-

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

動物における内因性プラスマローゲン量の増加剤であって、
リノール酸、リノレン酸及びドコサヘキサエン酸を含む長鎖多価不飽和脂肪酸（LCPUFA）を有効成分として含有し、
前記LCPUFAがグリセロリン脂質として投与されるように用いられる、
 増加剤。

【請求項 2】

前記LCPUFAが、少なくとも18個の炭素原子及び少なくとも2個の二重結合を有するモノカルボン酸である、請求項1に記載の増加剤。

【請求項 3】

前記LCPUFAが 6 脂肪酸及び 3 脂肪酸である、請求項1又は2に記載の増加剤。

【請求項 4】

前記LCPUFAが経口投与されるように用いられる、請求項1～3のいずれか一項に記載の増加剤。

【請求項 5】

前記LCPUFAが約1～約1000mg/kg/日の量又は約1～約1000g/kg/食餌の量で動物に投与されるように用いられる、請求項1～4のいずれか一項に記載の増加剤。

【請求項 6】

プラスマローゲン量の低下に起因するかその影響を受ける、動物の疾患又は状態の予防又は治療剤であって、

リノール酸、リノレン酸及びドコサヘキサエン酸を含む長鎖多価不飽和脂肪酸（L C P U F A）を有効成分として含有し、

内因性プラスマローゲン量を増加させる量の前記 L C P U F A が動物に投与されるように用いられ、

前記 L C P U F A がグリセロリン脂質として投与されるように用いられ、

前記疾患又は状態は、メタボリックシンドローム、結腸癌、前立腺癌、肺癌、乳癌、卵巣癌及び腎臓癌から選ばれる、

予防又は治療剤。

【請求項 7】

前記 L C P U F A が、少なくとも 18 個の炭素原子及び少なくとも 2 個の二重結合を有するモノカルボン酸である、請求項 6 に記載の予防又は治療剤。

【請求項 8】

前記 L C P U F A が 6 脂肪酸及び 3 脂肪酸である、請求項 6 又は 7 に記載の予防又は治療剤。

【請求項 9】

前記 L C P U F A が経口投与されるように用いられる、請求項 6 ~ 8 のいずれか一項 に記載の予防又は治療剤。

【請求項 10】

前記 L C P U F A が約 1 ~ 約 1000 mg / kg / 日の量又は約 1 ~ 約 1000 g / kg / 食餌の量で動物に投与されるように用いられる、請求項 6 ~ 9 のいずれか一項 に記載の予防又は治療剤。